

# 日左連

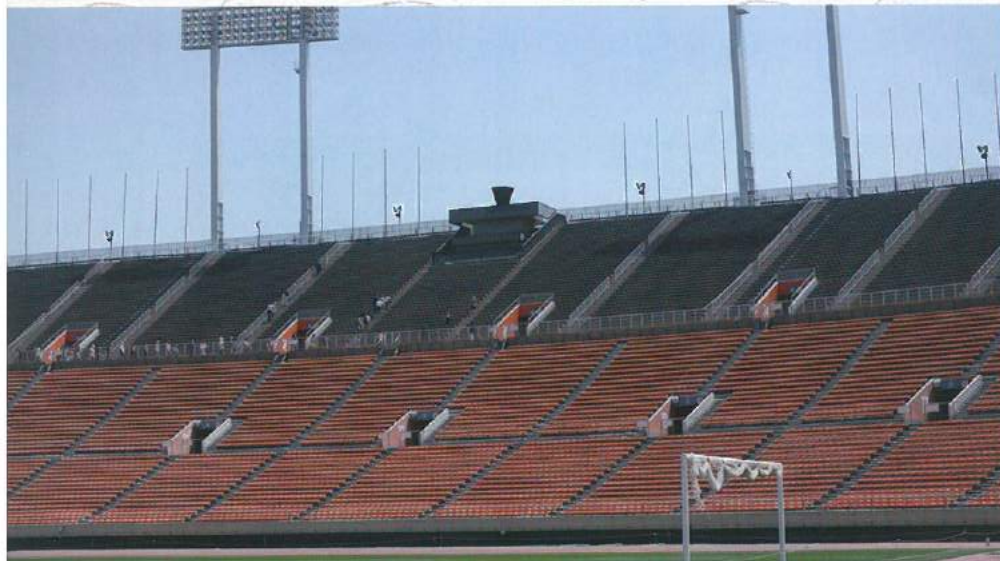
2020.1-2 / No.712

特集

特集 東京オリンピック物語

現代左官事情

「SDGs (エスディージーズ)」の取り組み



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

一般社団法人日本左官業組合連合会  
Japan Plasterers' association

SDGsへの取り組み

信用  
信頼

日左連加盟の  
左官屋さん



2030年を住み続けられる世界に！

日左連は、国際社会の一員として、持続可能な開発目標(SDGs)に賛同し、「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の分野につなげる活動を通じて、より良い国際社会の実現に貢献・応援いたします。

公式ホームページ <http://www.nissaren.or.jp/>

日本左官業組合連合会

検索





## フレスコ画について

大野 彩

フレスコ画は、まず壁にマルタ（石灰モルタル）\*1を塗り、それが生乾きの間に水だけで溶いた顔料で絵描きます。フレスコ（fresco）という言葉は、英語のfreshにあたるイタリア語で、“新鮮な”または“爽やかな”という意味があります。

「フレスコ」は、人間の「創造」という原始的営みを受け止めた「絵画の原点」と言っても良いでしょう。

ブオン・フレスコは、マルタの壁が生乾きのうちに絵描きます。およそ8時間から状況によって1日の間です。水だけで溶いた顔料は消石灰の成分によって画面に定着します。

マルタは元の石灰岩へと戻るため、彩色大理石

のようになり、何百年何千年と色褪せない絵画が作られます。

フレスコ・セッコは、乾いた石灰の壁の上に、絵を描きます。下地が乾いた状態のため、顔料に接着剤を混ぜて定着させます。接着剤はカゼイン、膠、卵などです。種類によっては劣化、剥離することもあります。

くどうちあき脳神経外科待合室壁画「ちあきの森」の写真で制作工程の説明をします。

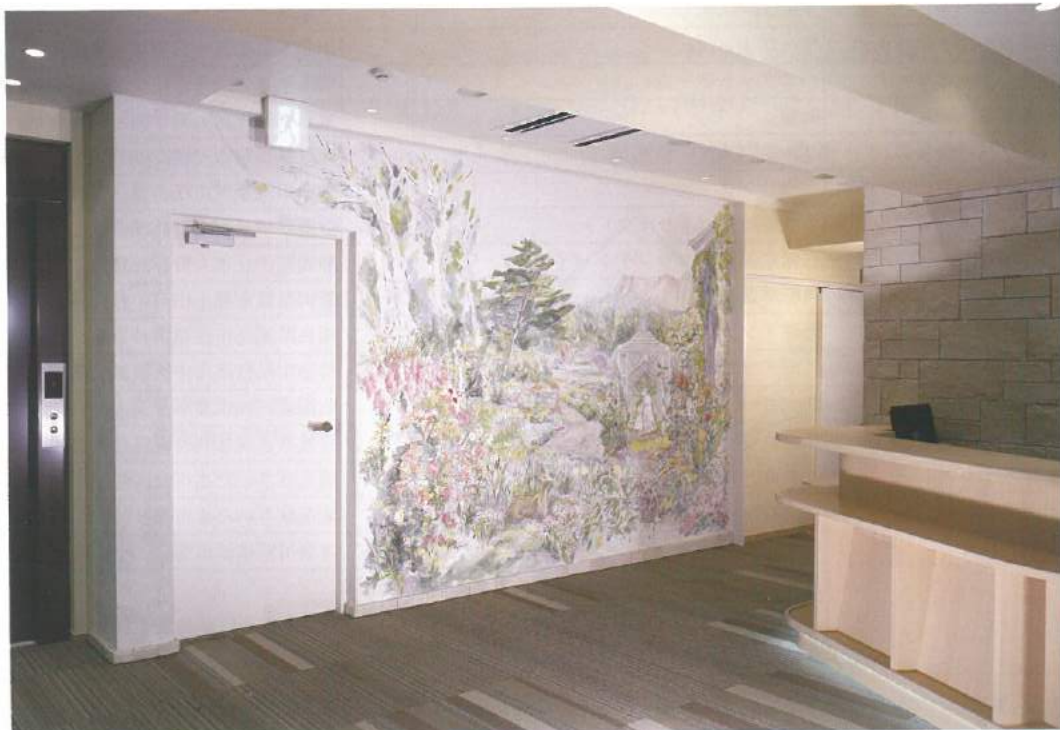


写真7 完成壁画  
©くどうちあき脳神経外科

## 工程1 支持体



写真1

この場合は構造コンクリートですが、フレスコ画の理想の支持体は煉瓦壁です。

## 工程2 地塗り



写真2

下地には必ず水を与えてマルタが付きやすいようにします。支持体に凸凹がある場合、それを平らにするように下塗りをします。

うちっぱなしコンクリート上に1層のセメントモルタル及びフレスコのためのマルタ3層、合計4層の左官をします。2層目と3層目の乾燥期間を長くとりました。

セメントモルタル施工は、フレスコ制作範囲を含んだ壁面全体で、厚みは4mm—7mm程度です。

## 工程3 下絵



写真3

描画の壁を塗る前に、下絵を写します。

## 工程4 上塗り



写真4

その日に描く絵の範囲だけ、上塗りをします。上塗りをするによって下絵のラインは隠れてしまいます。

## 工程5 描画



写真6



上塗りの壁が締まってきたら顔料を水だけで溶いて着色を始めます。初めは水の吸収が遅いので時間を掛けて描き、顔料の定着を待ちます。壁は時間が経つに連れて、吸水のスピードが早くなりどんどん定着します。これがフレスコ画のゴールデンタイムで、描く者にとって一番楽しい時間です。顔料は消石灰の成分（カルサイト）の結晶に包まれて定着します。

この時を過ぎると壁は水を吸い込まなくなり、顔料の定着を終えます。

三鷹の森ジブリ美術館のエントランスホールの天井はブオン・フレスコで、大野彩と壁画LABOのメンバーが制作しました。

## 材料について

### ▶石灰

2019年栃木県佐野市葛生の行政センターの壁画制作をした時の事です。葛生地区にある石灰メーカー全17社より、取り扱いの消石灰をいただき、ミックスしたところ、粒度分布が広がって、大変使い勝手の良い消石灰になりました。

石灰も産地と生いたち、つまり、採れる場所、どんな窯で焼成されるか、どういう風に消化されるか、どう貯蔵されるかによって違う顔になります。これらを知った上で組み合わせることによって、欲しい「消石灰」を作ることができるのです。この消石灰選びは、フレスコ画を何に（支持体）、どう（手法、



写真ジブリ美術館  
三鷹の森ジブリ美術館（予約制） 入口の天井フレスコ画  
©Museo d' Arte Ghibli

広さ、使用目的)等によって異なります。

私は1995年～96年にイタリア、ルーマニアに留学しフレスコ画を学びました。ヨーロッパでは生石灰を大量の水に投入し、牛乳のような消石灰を作ります。それを地面に掘った大きなプールに流し入れ、保管します。すると不要な水は土が吸い取ります。けれども必要な水は土が供給し、2～3年経つとバター状の消石灰ができます。これを熟成湿式消石灰、イタリアではグラッセッコと呼びます。ローマ時代の水道橋の治水工事に使われた消石灰がこれです。プールの管理人は3年を経ずにこの消石灰を売買すると、打ち首になったとの話があります。

ルーマニアでは、アカデミアの校庭に大きなプールを掘って、グラッセッコを作っていました。

### ▶砂

砂は粒度分布が重要です。5号、6号珪砂に加えて、4号、7号珪砂を適度に加えると、粒度分布が広がり、より良いマルタが作られます。

私がイタリア、トスカーナのドツァで縦3m×幅2mほどのフレスコ画を制作した時、6日間を

かけて絵描きました。ルーマニアのニコラエ・サバ先生は自国より麻すさを混入したグラッセッコを持参し、それを壁全面に塗り、その日絵描く部分だけを小さな元首鍬で押さえながら、3日ほどで絵描きました。鍬で押さえることにより、すさの中の水分が画面の上に上がり、顔料を定着させます。

サバ先生は昼食時、作業服を着替えてたっぶり1時間以上の食事をしていました。迅速な作業と余裕を持った時間の使い方は几帳面な日本人が学ぶべき考えであると思いました。

本文は『日左連誌』の編集委員・山口明が大野彩先生を取材し、森勝也さん及び村尾かずこさんの協力のもと原稿をまとめました。

\*1 マルタは砂と消石灰を混ぜた石灰モルタルのことです。

イタリアでモルタル(マルタ)のことは、ほぼ石灰モルタルのことです。

日本の左官がモルタルというとはほぼセメントモルタルなので、ここではあえてマルタと表記します。

\*2 下地はフレスコ画では支持体のみを指します。

\*3 協力:多摩美術大学美術館

\*4 参考文献

岩波アクティブ新書 大野彩著「フレスコ画への招待」2003年

## 大野 彩 (おおの みさお)

### 【プロフィール】

1953 東京都生まれ

1976 多摩美術大学油画科卒業

1978 東京藝術大学大学院壁画科修了 フレスコ専攻 大橋賞受賞

1995～96 イタリア留学、ルーマニアアカデミア フレスコ技法研修

2008～10 多摩美術大学共同研究発表「時を航るフレスコ」展企画開催

2014～ 全国漆喰絵コンクール審査員(伊豆松崎町)

現在、武蔵野美術大学非常勤講師、フレスコ普及協会代表、壁画制作チーム「壁画LABO」主宰

